

WE しもやま LOVE



トヨタ工業学園の地域貢献活動が4か所で行われました



▲下山中学校 プール清掃



▲大沼 八沢の丘公園 ドッグラン移設

5月29日（金）、トヨタ工業学園専門部の学園生125名が、下山地区内の4か所にて地域貢献活動を行いました。下山中学校では50名の学園生がプール清掃や敷地内の除草作業を実施しました。また、大沼自治区では八沢の丘公園の整備を行い、ドッグランの移設等に取り組みました。まどいの丘ではテラスの塗装やデイサービス利用者との交流会、阿蔵自治区ではわくわく広場の除草作業や集会所敷地内の清掃活動を実施しました。学園生たちはこの活動を通して地域の皆さんと交流を深めるとともに、地域課題の解決につなげていきます。なお、今年度の地域貢献活動は、今後7月、9月、11月に予定されています。



第11期（令和8・9年度）地域会議が始まりました

今年度から新たに6名の委員を迎え、総勢12名で「第11期地域会議」がスタートしました。地域会議は、地域の課題に対して解決策を検討し、市長へ提言等を行うための組織です。下山をより良くしていくため、委員一丸となって活動していきます。



▲第11期地域会議委員の皆さん

<第11期委員紹介>

【会 長】川合 成幸（田平沢）

【副会長】中根 金良（花山）

- | | |
|-------------|-------------|
| ■ 中川 康恵（阿蔵） | ■ 大河原章仁（大沼） |
| ■ 木村 久（大沼） | ■ 筒井 薫（三巴） |
| ■ 青井 宏次（花山） | ■ 平井 達也（花山） |
| ■ 川合 真裕（羽布） | ■ 杉浦三和子（羽布） |
| ■ 谷本 佳子（和合） | ■ 浜島 有二（和合） |

世界のラリーが、今年も下山へ

5月28日（木）から31日（日）にかけて、「FIA世界ラリー選手権（WRC）フォーラムエイト・ラリージャパン2026」が開催されました。下山地区での開催は今回で5回目となり、昨年に続いて最終日の31日（日）には三河湖スペシャルステージ（SS）が実施され、観戦エリアには約2,000人の来場者が訪れました。

また、29日（金）には足助SSのスタート地点として、初めて阿蔵自治区内をラリーカーが走行しました。世界ラリー選手権の開催は、下山地区を全国、そして世界に広く知っていただく絶好の機会です。その舞台を支えているのは、地域の皆さんの日頃からのご協力とおもてなしの心です。ご協力いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。



▲実行委員・ボランティアの集合写真

写真で世界ラリー選手権を振り返ろう。



▲三河湖公式観戦エリアの名所
神（ジン）ジャンクション



▲中学生ボランティアの皆さん
のべ13名が参加し活躍



▲しよやま和太鼓 雅の皆さん
熱い演奏で観客をお見送り



▲和合住民観戦エリア
フィニッシュ地点を目の前で



▲初めての5月開催
植えたての早苗が青く映えます



▲阿蔵自治区梨野町リエゾン
国道420号をラリーカーが走行



▲トヨタ工業学園の皆さん
30名がスタッフとして参加

一緒に活動する仲間を募集しています！（実行委員・ボランティア）

しよやまラリー実行委員会では、地域住民が主体となり、世界ラリー選手権を始めとするラリー競技を盛り上げるとともに、ラリーをきっかけに下山の魅力を広く発信し、下山ファンを増やすための活動を行っています。

ラリーに詳しくない方でも大歓迎です。下山を応援したい方、地域と一緒に盛り上げたい方は、ぜひ私たちと一緒に活動してみませんか。実行委員としての参加はもちろん、まずはボランティアとして気軽に参加していただくこともできます。さまざまな形で関わることができますので、興味のある方はぜひご連絡ください。

皆さまのご参加をお待ちしています。



しよやまラリー実行委員会
ボランティア申込フォーム

【今回の世界ラリー選手権ボランティアからの声（アンケート抜粋）】

他地区と比べても三河湖SSのおもてなしは特に良い。お客さんは笑顔で帰っていく。毎年、ボランティアに参加したい！

フレンドリーな雰囲気、スタッフも楽しんでいるのが良い。「ナイスラリー！」という掛け声も下山らしくて良い。

おもてなしも過去の経験が活かされてレベルアップしている！





ラリーがつないだ、下山の想い

世界の舞台で走るラリー選手たちへ、下山からの温かい応援の気持ちを届けたい。

そんな思いから、下山地区内の小中学校や福祉事業所の皆さまに、選手へ手渡すおもてなし品を制作していただき、しもやまラリー実行委員会を通じて選手の皆さまへお届けしました。今年の世界ラリー選手権では、下山地区内の全ての小中学校にご協力いただき、「応援の輪」がさらに広がりました。

今回は、皆さまに制作していただいたおもてなし品をご紹介します。

下山中学校

受け渡しの様子



●車型ストラップ●

和柄の紙ともみじの葉を使って車型のストラップを作りました。選手の幸運と安全を願い、心を込めて制作しました。

おもてなし品

応援の気持ちを受け取った選手



大沼小学校



●和柄扇子●

上級生が下級生に教えながら、みんなで和柄の扇子を作りました。5月の開催なので、選手が暑いときに使えるように作りました。



花山小学校



●しおり●

下山を代表する「蛇ねぶり岩」や「ささゆりの花」などの写真と一緒に、応援メッセージをしおりに書きました。



巴ヶ丘小学校



●和柄扇子・箸セット●

選手が暑いときに使えるように扇子を作りました。また、下山でおいしいものを食べてほしいという思いから、箸セットも作りました。



福祉事業所の方々



●匂い袋・五平マンキーホルダー●

下山の森・スマイリング・おいでんクラブ・まどいの丘デイサービス・しもやま里山協議会で、檜の香りとぬくもりを選手に届けたいという思いで制作しました。



住民メッセージ入り勝田貴元選手応援旗



産業フェスタなどで皆さまにメッセージを記入いただいた応援旗を今年も勝田貴元選手へ手渡せました！

ありがとうございました

心のこもったおもてなし品を制作してくださった皆さま、本当にありがとうございました。

一つひとつ丁寧に作られた作品は、選手の皆さんの笑顔につながり、下山ならではの温かいおもてなしを届けることができました。



「豊田しもやまラリー」は 11月8日（日）開催予定

次回も地域一体となって盛り上げましょう。詳しくは次号以降の本誌をご覧ください。



このコーナーは、地域記者ビレファンまちやの連載コラムです。下山に移住・定住された方たちを紹介し、下山地区の魅力の再発見を目指しています。第13回は、花沢町でカフェをされている太田翔さん取材しました。

【太田翔さんのプロフィール・しもやまに定住したきっかけ】

今回ご紹介するのは、花沢町にお住まいの太田翔さんです。

太田翔さんは、今年44歳。奥さまの里美（さとみ）さん、4歳の依真（えま）ちゃんとともに下山で暮らしています。岡崎市で育ち、15歳のときに下山へ。下山中学校へ通い、高校を卒業後は北海道の大学へ進学し、そのまま現地で車関係の営業職に就きました。27歳まで北海道で暮らした後、家庭の事情をきっかけに下山へUターンしました。下山へ戻ってからは、約10年間の車の営業職をはじめ、運送業やバイクガレージの運営、輸入古着の取り扱いなど、多彩な仕事に携わってきました。



▲まちや（左）と太田さんご家族

【いすとカフェについて】

奥さまの「カフェをやりたい」という夢を形にするため、ご自宅を改装。2024年に「いすとカフェ」を花沢町にオープンしました。お店の名前の由来は、太田さんが椅子をとっても好きなことから。店内には太田さんらしいこだわりが感じられる椅子や空間が広がり、ゆったりと落ち着ける雰囲気となっていました。取材当日は、依真ちゃんもかわいらしくお出迎えしてくれて、あたたかい空間の中でいただいたコーヒーがとても美味しく、太田さんご家族の雰囲気そのものが、お店の居心地の良さにつながっているように感じました。

【太田さんからしもやまの好きなところをひとつ！】

太田さんに下山の好きなところを伺うと、まず出てきた言葉は、
「信号が少ないところ」でした。

バイクに乗る太田さんにとって、信号の少ない道を、豊かな自然を眺めながらのんびり走れるのが下山ならではの魅力だそうです。

また、もう一つ嬉しいこととして話してくださったのが、地域の人との関わりです。近所の人たちが、依真ちゃんと自然に仲良くしてくれること。子どもを地域みんなで見守ってくれるような環境があること。それがとてもありがたく、嬉しいと話してくださいました。



▲趣味は家族でキャンプ



◀椅子に囲まれた店内の様子

【取材を終えて】

太田さんご家族の暮らしからは、自然の中でのびのびと過ごせる時間や人との距離の近さ、そして家族の夢を形にできる場所など、下山ならではの魅力が伝わってきました。快く突撃インタビューを受けてくださった太田さんに感謝します。太田さん、里美さん、依真ちゃん、今回はありがとうございました！

取材・記事：川合真裕(まちや)：平成4年生まれ。小・中・高校と卓球に明け暮れる毎日。羽布建設の家業を継ぐため現在奮闘中。下山を盛り上げたいという想いを持った同級生5人組「Village Fan's Co. (ビレファン)」代表。現在、里楽暮住(りらくくす)しもやま会の委員に就任しています！





アジア競技大会が下山にやってきます！

9月19日（土）から10月4日（日）まで、第20回アジア競技大会が愛知県で開催されます。アジア競技大会とは、4年に1度開催されるアジア最大のスポーツの祭典です。

日本での開催は、第3回東京大会、第12回広島大会に続き、32年ぶり3回目となります。セパタクローやカパディなど、オリンピックにはないアジア特有の競技が実施されることも魅力の一つです。

豊田市内では、サッカー、卓球、カヌー・カヤック-スラローム、射撃の4競技が行われます。ここ下山地区では、宇連野町にある愛知県総合射撃場において射撃競技が実施されます。

また、10月18日（日）から10月24日（土）には、第5回アジアパラ競技大会が開催されます。支所では、射撃の紹介パネルを設置していますので、お越しの際はぜひご覧ください。



▲豊田市内での開催地



ヤギの放牧による除草が今年もスタート



▲除草の様子

下山支所では、令和3年度からNPO法人下山わくわくファームに委託し、ヤギの放牧による庁舎北側斜面の除草を行っています。ヤギによる除草は、人の手では作業が難しい急斜面でも安全に除草を行うことができます。また、草刈機の使用による二酸化炭素（CO₂）や騒音の発生を削減できるほか、刈草の処分も不要なため、環境負荷の低減にも貢献しています。放牧は9月上旬まで行う予定です。支所へお越しの際は、のんびり草を食べる姿をご覧ください。



下山地区データ

人口
3,826 人
(-78)

男性
1,908 人
(-42)

女性
1,918 人
(-36)

（6月1日現在）
※（ ）は前年同月比
世帯数
1,643 世帯
(1)

発行情報

編集・発行

豊田市役所下山支所（〒444-3242 愛知県豊田市大沼町越田和37-1）

毎月15日発行

お問い合わせ

TEL 0565-90-2111 FAX 0565-90-3344

MAIL shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp

地域記者を募集中！あなたの伝えたい地域情報を掲載しませんか！





【 社協下山支所だより 】

まどいの丘



住所：豊田市神殿町中切7番地2

TEL:0565-90-4005 / FAX:0565-90-2419 / MAIL:shimoyama@toyota-shakyo.jp



まどいの丘デイサービスセンターの紹介

まどいの丘デイサービスセンターは、「元気な100歳」を目標に、行きたい場所へ行ける・居たい場所で過ごせる毎日を応援しています。ご利用者様の役割作りや、歩行アシストロボット等、器具を用いた訓練など、その方に合わせた個別の機能訓練にも丁寧に取り組んでいます。

見学は営業時間内であればいつでも可能ですので気軽にお問い合わせください。



子育て世代から孫守り世代まで年齢差を感じさせない元気なスタッフが勢揃い♪



WRC みんなで楽しく応援しました！



まどいの丘おいでんクラブの紹介



元気いっぱいのスタッフばかり♪

地域のみなさまが住み慣れた場所で、自分らしくイキイキと暮らし続けられるようサポートする、おいでんクラブです。季節に合わせた行事、外食や買い物、おやつ作りなど内容盛りだくさんで活動しています！

毎日の体操は体がすっきりしたり、体力・健康づくりに活かされると利用者様から大好評！

スタッフ一同、あたたかい笑顔でお待ちしています！



おやつ作りの様子♪

まどいの丘デイサービスセンター

まどいの丘おいでんクラブ

☎0565-90-4005



下山交流館だより

連絡先

TEL:0565-91-1650

FAX:0565-91-1030



開館:午前9時～午後9時 休館日:月曜日(祝日、振替休日を除く) HP:<http://ph-toyota.jp/guide/shimoyama/>

あそびま GOOL

楽しく作って遊んで体験しよう!

【日 時】8月1日(土) 9時30分～12時30分

【場 所】下山交流館

【対 象】下山地区の中学生以下

講座案内

申込み
不要

有料

- ・こども商店街
- ・木工作品づくり
- ・革工芸品づくり

SUMMER

無料体験内容

- ・じゃんけんゲーム ・ミニ四駆
- ・バルーンアート ・水消火器体験
- ・石膏で作る指型
- ・ビレファンと歌おう

※詳しくは各小中学校・こども園より配布されるチラシ、交流館HP、Instagramをご覧ください。

講座報告

自主グループ リーダー研修会①

6月11日(木)、新代表を対象に交流館のルールやマナーを再確認をしました。
また、自主グループ『ささゆり下山保存会』の保護活動紹介に触れ、育成の難しさを知りました。



ささゆりについて学ぼう! 大沼小学校1.2年生

ささゆりの育成方法を熱心に聴いた後、ささゆりが咲いている森へ移動。形や色、香りを観察し、配布された学習ノートを学校で完成させ『スマイルフェスタ』で展示します。



ロビー展示体験 イベント

下山在住の講師『ぬくもりはうす*manmo』さんから、がま口の作り方を学びました。ひと針ひと針、丁寧に縫って出来上がった作品に、参加者は大喜びで、充実感を得た体験でした。



令和8年度 課題図書のお知らせ

・小学校低学年

「まこちゃんとコトバロボ」
「なにかいいことあった?」
「ララのまほうのことば」
「たねはいのちのおわりと はじまり」

・小学校中学年

「まだまだここから」
「それからぼくはひとりで歩く」
「おいしいお米をつくりたい!」
「宇宙でウンチ」

貸出期間 15日間
予約取置期限 7日間
(※課題図書に限る)

・小学校高学年

「ポジション!」
「リヒト!」
「ミシュカ」
「キミの一步アフリカ」

・中学校

「君の火がゆらめいている」
「チーム・テストなら だいじょうぶ」
「リュウグウの砂に挑む」

・高等学校

「スウィッシュ!」
「ノアハム・ガーデンズの家」
「平和のうぶごえ」



下山中学生職場体験

6月2日(火)～4日(木)、開館準備から窓口・図書業務、ウエルカムボード描きなど交流館の様々な仕事を3日間体験しました。





流れ橋

絵と文 なみむら みるつ



昔の橋は丸太橋や木で組んだ橋。木造の橋は大雨で壊れやすく、流されやすい。流水たら元に戻すのに時間もお金もかかった。それで、大水が出たらわざと流されるように作り、流水たらすぐに直せる「流れ橋」というのがあったんだよ。

2月号に書いた羽布のお宮前の橋は、昭和35年に開拓橋が架かるまで「流れ橋」だったよ。この水は川の真ん中に大きな石や重い石を釘金のかごに詰めて造った土台に、兩岸から丸太橋が渡ってあって、丸太の岸の側は岸の杭と太いロープで繋がれていて、土台側は上によいしょと乗せてあるだけの橋だ。さあ大水になると丸太の橋は土台側が浮いて外水、丸太は杭と繋がっているのて川の兩岸で流水に乗ったままじゃぶじゃぶ揺れちゃったよ。

二、三日して川の水が減って土台すれすれになった頃を見計らって、みんなで川に入り兩岸の丸太を一本ずつ流水に浮かせて土台の川上まで運び岸へ丸太の岸側を先に戻し、土台の側を流水に乗せながらよいしょと土台へ戻したよ。四本の丸太が戻ればもう橋として使えた。昔の人は川の流水も利用してすごい工夫があったな。

小さな流れ橋はあちこちにあったようなので地元のじいちゃんに聞いてみてほしい。

